



平成12年当時の大手柄酒造の南蔵

伊丹の銘酒「大手柄」なくなる



平成12年当時の大手柄酒造本社

寂しくなった伊丹の酒造界

伊丹市中央三丁目にあった大手柄酒造株式会社（村岡茂之祐社長）が、さる3月末でひっそりと廃業した。清酒業界の低迷と村岡社長の健康上の問題が、廃業の大きな理由で、文久2年（1862）に誕生した「大手柄」も、ここに144年の歴史に幕を降ろした。

大手柄酒造会社は、第2次世界大戦が終わる直前の昭和20年6月、村岡家の「大手柄」と4つの酒造会社が合併して伊丹酒類興業有限会社を設立、昭和43年に大手柄酒造株式会社と改称した。そして、とくに同社の「しぼりたて」は、酒通の人々にこよなく愛好された。

合併した残る4つの酒造家は、享保2年（1717）創業で、明治に入り「富貴長」の商標を用いた岡田家、「蒼鹿」の鹿島合名会社、それに「蒼鶴」の田中家、「古菱」の石橋家。このうち田中家は昭和23年に独立したが、平成5年に廃業している。



市内の酒造業は2社に

これで江戸時代70軒を超えた伊丹の酒造家も、順に減って昭和10年代には10社になった。そして戦時中の企業整備で3社となり、戦後の二期5社に増えたものの減り続け、今度の大手柄酒造の廃業で、残るは小西酒造会社と伊丹老松酒造会社の2社だけとなった。

なお、平成12年まであった大手柄酒造会社の古い本社屋は、棟札から正徳4年（1714）に坂上忠兵衛によって建てられた民家を、後の時代に酒蔵に転用した。

この坂上忠兵衛は、この時代に「百歳翁」として、領主の近衛家から表彰された坂上忠兵衛宗清の子。そして坂上家は、大鹿地区の出身で、この一族が江戸時代の銘酒「剣菱」を造り出したとされており、その後、幾多の変遷を経て、江戸時代末にこの酒蔵を大手柄酒造が手に入れたと思われる。